

南都代官竹村嘉広触状（折紙）

尚々、遠方左之兩人罷越注進、入念之儀^ニ候、以上

昨廿二日之晩、小川村助左衛門参、近日又候哉、七色村忠左衛門罷越、於立川渡村様子承届候、最前も申遣候通、村々火之用心等念^ヲ入、又八用事有之候共、上使之御衆中様御逗留中之高野山へ八勿論、むさと他出不仕候様^ニ相心得可被申候、紀州様衆より自然御用も候八、御手つかへ無之様^ニ相達可被申候、替儀も候八、追々注進可被致候、惣而村中物、毎静^ニ仕諸事、此方より之下知相待可被申候、已上

（元禄五年）
七月廿三日

藤原幸右衛門^印

（貼紙）
元禄五年

秋山武左衛門^印

御代官竹村八郎兵衛様」

十津川

上組

庄屋中

下組